

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@cfi.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第18回「哲学堂公園」

今月は、筆者のお気に入りの散歩コース、東京の中野区立哲学堂公園を紹介します。この公園は奇妙というべきか、絶妙というべきか、言葉の選択に迷う所です。

【入り口が2つある】

まず、入り口から迷いが生じる。新青梅街道の側には正門があり、「哲理門」と表示してある。お寺の山門のような造作であるが、仁王様ではなく、右には天狗が、左には幽霊がいる。この哲理門から少し離れたところに「常識門」という入り口がある。この2つの門の選択方法は「哲学を志す者は哲理門より入れ」という具合である。常識門は普通の人のためにある。

選択を迫られて散歩を中止しなければならない場合もある。たとえば、「二元衝」と表示された園内の分岐点では、「右に行けば唯物園、左は唯心庭、あなたはどっち？」という選択がある。ここで唯物論 vs. 唯心論を真剣に考え込んでしまうと、散歩にならない。



【幾多の賢人が祭られている】

公園内の建物の多くは、中野区の文化財に指定されている(文献1)。四聖堂には、孔子、釈迦、ソクラテス、カントが祭られていて、これが世界哲学を表している。そして、六賢台が東洋哲学で、聖徳太子、菅原道真、荘子、朱子、竜樹、迦毘羅であり、さらに日本の三学亭へと続く。

ソクラテスにしてみれば、遠くギリシャを離れて日本で祭られているのを誇りに思うだろうか、あるいは照れくさい気がするだろうか。

この公園を創設した井上円了先生は、何も酔狂でこのようなことを始めたわけではない。円了自身の記述を見ると、「己れの一身は出来得る限り質素を守り儉約を行ひ、是によりて余したるものは、公衆に分与する精神にて、哲学堂の方にあてはむる心得であ

る」(文献2)という覚悟である。彼は東洋大学(当時は哲学館大学)の創立者であり、この公園は彼が構想した社会貢献であった。

【絶対城と理外門】

絶対城というのは図書館のことである。「万巻の書物を読みつくすことは絶対の妙境に到達する道程であって、哲学界の万象はこの読書堂にあり」と解説がある。う~む。万巻といっても本当に全部読みつくせるのかなあ。それに井上先生、現代では電子図書館ですぜ。インターネットでサーバーの情報を読みつくすなんてだれにもできやしない。

何を言うか君は、絶対城の横の「理外門」を見逃しておろぞ。

あつ。その門は何ですか。なにに「この門を理外と名付けしは、哲学上論究を尽くしたる上は、必ず理外の理の存するを知る故である」ですって。な~んだ。ちゃんと逃げ道が用意してあるのか。しかし、この理外門はいかにも裏口という感じがする。

【井上円了の墓】

このように迫力のある井上先生だが、ユーモアを感じさせる側面もある。

円了の墓は哲学堂公園の斜め向かい、新青梅街道の反対側の蓮華寺にあるのだが、墓の形が実にユニークなのだ。墓の下部には石で作った井桁があり、その上に石の円盤が載せてある。その円盤には「井上圓了之墓」と彫ってある。これは「井の上に圓(円)」だから井上円了という謎解きのような表現である。

井上先生は哲学堂を作る資金を集めるにあたって、「有志者の寄付を仰ぐことは本意ではない」と言っている。彼は旅行中に頼まれて額や掛物の揮毫をした。わかりやすくいえば、筆で字を書いてあげるのだ。それで謝礼を受け取ると、その半額を演説会の経費にあてたり、公共事業や慈善事業に寄付したりした。そして、残りの半額を哲学堂の建築維持にあてたのである。その意味では、この公園は彼の筆になるものであり、記念碑として筆塚が建てられている。

もっとも、円了自身は自分は悪筆であると言い、「字をかきて恥をかくのも今しばし、哲学堂の出来上がるまで」という言葉を残している。

文献(同公園入り口近くの売店で入手可。この売店は門外にある)

①中野区立哲学堂公園(写真集)、(財)東京公園協会、1994年12月再版。

②前島康彦「哲学堂公園」東京公園文庫21、(財)東京公園協会、1980。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp